１月２２日（月）「ユニセフについて」

全校のみなさん、おはようございます。

今日は、「ユニセフ」について、お話しします。

ユニセフは、「国際連合」という世界中の代表が集まってできた機関で、戦争や御飯が食べられないで苦しんでいる子供たちを助ける目的で作られました。

ここにユニセフのマークがあります。このマークには、平和の印であるオリーブの葉に囲まれた地球の上で、子供が高く抱かれています。ユニセフのマークには、世界中すべての子供たちが、心も体も健康に育って、よりよい世界をつくる力になっていってほしいという願いがこめられているのです。

ユニセフは、今から７８年前の 1946 年にできました。その前の年まで、第二次世界大戦といって、日本がアメリカなどの国と戦争をしたように、世界中で大きな戦争が起きていました。その結果、世界では多くの子供たちのお父さんやお母さんが死んでしまったり、住む家を焼かれてしまったり、食べ物がなかったりして、とてもつらい暮らしをしていました。そんな子供たちを助けようとしてつくられたのがユニセフです。

そのユニセフに、昔、日本の子供たちも助けてもらったことがあります。第二次世界大戦のあと、日本の子供たちは、食べ物や薬などがなくて困っていました。

赤ちゃんが１００人生まれたら、そのうちの６人は病気で生まれてすぐに死んでしまっていたのです。

そこで、戦争が終わってから４年後の 1949 年から１５年間、初めて東京でオリンピックが開かれ、新幹線ができた年の 1964 年まで、ユニセフは、日本の子供たちために、食べ物や薬、服の原料など、たくさんのものを支援してくれました。みんなが毎日食べている給食も、ユニセフのおかげで子供たちはお腹がいっぱい食べることができたのです。

日本の子供たちは、もうユニセフの助けがいらなくなりましたが、世界では、今もまだ、安全な水が飲めない、御飯が食べられない、薬がない…などの国がたくさんあり、生まれてから１か月以内に死んでしまう子供が、１年間に２３０万人もいます。ユニセフ募金は、世界中の子供たちが、健康で元気に育ち、自分が持って生まれた力を十分に発揮できるチャンスを広げるために使われています。

明日、代表委員さんから「ユニセフ募金」についてのお話があります。しっかり聞いて、自分にできることをしてほしいと思います。

それではこれで朝会の話を終わります